

# 1. 評価結果概要表

作成日 2007年12月24日

## 【評価実施概要】

事業所番号	1275700043
法人名	(有)いなりやホームサービスセンター
事業所名	グループホームつくし
所在地	〒289-3181 千葉県匝瑳市野手17146-2317 (電話) 0479-67-1555

評価機関名	特定非営利活動法人コミュニティケア研究所		
所在地	千葉県千葉市中央区千葉港4-4千葉県労働者福祉センター5階		
訪問調査日	平成19年12月18日	評価確定日	平成20年2月29日

【情報提供票より】(19年11月20日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成15年9月1日				
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人		
職員数	9 人	常勤専任6人	兼務2人	非常勤1人	常勤換算5.3人

### (2) 建物概要

建物構造	木造亜鉛鉄板葺き
	1 階建ての 1 階 ~ 1 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000円	その他	食料費30,000円 + 水道光熱費15,000円 + 実費	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無		
食材料費	朝食	200 円	昼食	350 円
	夕食	350 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 1,000円			

### (4) 利用者の概要(11月20日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	1 名	要介護2	3 名		
要介護3	4 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86.3 歳	最低	83 歳	最高	90 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	はしば医院 高橋歯科医院 九十九里ホーム病院
---------	------------------------

特定非営利活動法人コミュニティケア研究所

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

民宿を改築したホームで、海岸線からほど近い閑静な場所にある。法人代表者は介護スタッフと共に現場にたち、喜びや問題点を共有しながら理念の実現を目指している。管理者は看護師経験を活かし、毎朝、体操とバイタルチェックを行い、入居者の変化に気を配り、身体機能の防止に努めている。ホーム内は整理整頓、清掃が行き届き、清潔感がある。入居者の手作りの装飾品や書道の作品が掲示され、家庭的な温もりが感じられる。廊下がやや狭いが、歩行に支障がないよう手すりを工夫している。同じ敷地内にある代表者所有のカラオケルームを利用したり、昔ながらの竹とんぼ遊び、大きめの浴槽でのゆったりとした入浴は、入居者の楽しみとなっている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	“継続的な研修の受講”は、年間研修計画を作成し、必要な教育を明確にしている。さらに体系的な教育、訓練の仕組みの構築が望まれる。“事故の報告書の活用”は、事故報告書を行政に提出後、その控えを確実に保管している。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者、計画作成担当者はサービスの意義や目的を全職員に周知し、意識の共有を図る良い機会としている。また、外部評価の結果を真摯に受け止め、入居者がより快適に暮らせるよう活かし、サービスの質の向上に努めている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議では、行政職員、区長、民生委員、ホーム関係者などが参加し、入居者の状況や異動、行事などの報告を定期的に行うとともに、今後の課題や外部評価の結果などについても協議し、改善の契機としている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	苦情受付窓口をホームの内部と外部に設置し、重要事項説明書にその旨を明記している。また、事業所内にも掲示し、周知を図っている。家族の来訪時や運営推進会議での意見などを積極的に運営に反映している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	代表者が地元で古くから民宿を営んでおり、地域との関係は良好である。ゴミゼロ運動や地域の祭礼には積極的に参加しているものの、小中学生との交流や老人会の行事への参加などが少なく、今後、さらなる取組みが期待される。

2. 評価結果 ( 詳細 )

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	“入居者各人がその人らしい暮らしができ、当グループホームが地域社会の中の一員として自立し、融合すること”というホーム独自の理念を掲げ、個人を尊重し、地域と共存していくことを柱としている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を文書化し、ホーム内の掲示や職員会議で再認識するなど、職員間での共有が図られている。介護計画も理念の思想を取り入れ、理念の実現に向けて日々努力している。		
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	代表者が地元で古くから民宿を営み、地域との関係は良好である。ゴミゼロ運動や地域の祭礼には参加しているものの、小中学生との交流や老人会行事の参加などの機会が少ない。		地域との関係をさらに深めていくために、近隣の子どもたちとの交流や老人会の行事への参加などの取組が期待される。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価や外部評価を実施する意義をよく理解し、真摯に取り組んでいる。評価結果は、運営推進会議や職員会議で協議し、具体的な改善への取組を行っている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は行政、区長、民生委員、ホーム関係者らが参加し、入居者の状況や異動、行事などを報告し、今後の課題や外部評価の結果について協議し、改善の契機としている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当者との関係は良好で、書類提出の際などに、制度の最新情報の入手や意見交換を行っている。地域包括支援センターや入居者の保険担当者とも連携している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月ホーム便りを作成、暮らしぶりや行事などの情報を提供している。健康状態や職員の異動は電話等で連絡している。金銭管理は出納帳を作成、確認と捺印をもらっている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付窓口を内部と外部に設置し、重要事項説明書に明記し、事業所内にも掲示、周知を図っている。家族の来訪時や運営推進会議での意見を積極的に運営に反映している。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	1ユニットで職員の異動がなく、馴染みの関係を築きやすい。離職の場合は入居者へ十分説明し、離職後も可能な範囲で訪問してもらい、関係を絶やさぬ取組を行っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間研修計画に基づき、職種・経験別に参加する機会を保障し、新人にはダブルワークによるOJT教育を行っている。しかし、計画的な人材育成の仕組みにさらなる工夫が求められる。		管理者や職員の知識、力量のばらつきを把握し、介護の質を向上させる教育や、入居者のADLの低下にあわせた実践的トレーニングなどを計画的に行うことが期待される。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会などへの参加を通じ、交流を図っている。近隣の老人福祉施設や居宅介護支援事業所などと連携し、サービスの質向上を目指している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居者や家族と相談しながら見学、体験入居や一時帰宅などを行い、徐々に馴染めるように家族の協力を得ながら、入居者のペースに合わせて配慮している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>食事の後片付け、家庭菜園、掃除など、日常生活全般の知恵を教授してもらうなど、生活の中でその人が望む役割を担ってもらい、共に支えあう関係を築いている。</p>		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>センター方式のアセスメントシートを活用している。日々の様子を細かく記録し、その中から思いや意向を汲み取るよう努めている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>月1回の職員会議のほか、日常的に意見を言いやすい環境が整っており、全職員の気づきや入居者と家族の意向を汲みながら、介護計画を作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>3ヶ月に1回の見直しのほか、必要に応じて随時見直しをしている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	日常的に通院介助を行っている。入院時にも見舞いに行き、早期退院に向け支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	遠方の入居者については近くの病院を利用し、家族に報告している。近隣の入居者は、昔からのかかりつけ医に受診している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	すでに数名の入居者、家族とは終末期についての意思確認をし、職員間でも方針を共有している。		今後、医師との連携を強化していくとともに、全入居者について、重度化や終末期に向けた方針を共有することが期待される。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	マニュアルを活用し、日々、職員に徹底している。職員の入居者への対応に十分な配慮が感じられる。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	特に時間割を決めず、入居者の意思を尊重している。散歩に出る人、残って日向ぼっこをする人、それぞれの過ごし方を支援している。買物にも柔軟に対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	オープンキッチンで、食事を準備する音や臭いが食欲を誘う。ホームで作っている野菜を中心に、彩り豊かな食事を、職員も一緒に楽しんでいる。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	管理者が看護師で、適正な入浴頻度を把握し、実践している。状況に応じて臨機応変に対応する準備もある。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	天気が良ければ毎日散歩に出かけている。踊りが得意な入居者には披露できる場面作りをしたり、男性の入居者にはちょっとした力仕事を頼むなど、役割を持ってもらう工夫をしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩のついでに近隣の喫茶室でお茶を飲んだり、外食を楽しんだりしている。買物にも個別に対応している。		
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵はかけていない。外に出ていく入居者がいれば、職員が後をついて歩くようにしている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年3階の防災・避難訓練を実施し、そのうち1回は消防署が立ち会っている。		訓練は定期的に行われているが、地域の人々にも参加してもらうなど、いざという時に協力が得られる体制を作ることが期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりのおおよその食事・水分摂取量をチェック表に記録し、必要量の確保に努めている。水分は三食で摂取できるよう工夫し、おやつの際にもお茶で補給している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者が多く時間を過ごす食堂兼居間は、温かい雰囲気ですぐ居心地がよい。調査は12月だったが、クリスマスの飾りつけなどで季節感を出していた。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	できるだけ慣れ親しんだ家具や備品を持って入居してもらっており、各入居者にとって居心地のよい空間になっていると思われる。		